

6月の夜

ついこないだまでの夜はというと盛大な蛙の音が聞こえてきていました。このごろはそれも落ち着いてきました。そして、虫の音にもまだ早すぎます。ただ、雨は昼となく夜となく降り続け、その蕭々とした音が先ほどまでしていました。

だから、たまの雨の間隙をついての6月の夜は、静寂でした。

雨がそこかしこにその痕跡を残した道を慎重に進むと、空が見えます。ただ月もなく、星もない、雲が覆う空があります。しかしその空は下からの人の灯をほのかに返し、月のない星空よりも明るいのです。

風はなく、歩く頬には雨上がりの清涼とした大気が触れますが、それからの湿り気を感じることは容易です。その感触をどう取るかは自分の心と梅雨空の気まぐれとの塩梅にまかせておくとしましょう。

今の目下の命題は気晴らし、今日は気晴らしができました。

